

昭和五十年九月招集

第三回館山市議定会定例会會議録第四号

館山市議 会

目次

日時	二
場所	一
出席議員	一
出席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
認定第一号ノ認定第七号(質疑)	二
動議	二九
動議	三二
決算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託	三二
休会	三三
延会	三三
本日の会議に付した事件	三三

一、昭和五十年十月一日(水曜日)午前十時
 一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一 番	吉田 勇治郎	二 番	伊藤 幸太郎
三 番	穴戸 寿夫	四 番	押元 稔
五 番	黒川 平治	六 番	鈴木 正義
七 番	本間 昭二	八 番	松下 正己
九 番	鈴木 稔	一〇 番	流山 源次郎
一 番	近藤 好雄	一 番	栗原 一雄
二 番	林 豊	二 番	石井 輝久
三 番	辻田 実	三 番	安西 益男
四 番	渡辺 武敏	四 番	渡辺 軍治郎
五 番	伊賀 多朗	五 番	和田 一郎
六 番	石井 正	六 番	藤井 敏博
七 番	山口 康	七 番	望月 照正
八 番	山 口	八 番	西村 真次
九 番	田中 禄郎	九 番	遠山 ヨネ子
一〇 番	田中 禄郎	一〇 番	山 口
一一 番	田中 禄郎	一一 番	山 口
一二 番	田中 禄郎	一二 番	山 口
一三 番	田中 禄郎	一三 番	山 口
一四 番	田中 禄郎	一四 番	山 口
一五 番	田中 禄郎	一五 番	山 口
一六 番	田中 禄郎	一六 番	山 口
一七 番	田中 禄郎	一七 番	山 口
一八 番	田中 禄郎	一八 番	山 口
一九 番	田中 禄郎	一九 番	山 口
二〇 番	田中 禄郎	二〇 番	山 口
二一 番	田中 禄郎	二一 番	山 口
二二 番	田中 禄郎	二二 番	山 口
二三 番	田中 禄郎	二三 番	山 口
二四 番	田中 禄郎	二四 番	山 口
二五 番	田中 禄郎	二五 番	山 口
二六 番	田中 禄郎	二六 番	山 口
二七 番	田中 禄郎	二七 番	山 口
二八 番	田中 禄郎	二八 番	山 口
二九 番	田中 禄郎	二九 番	山 口
三〇 番	田中 禄郎	三〇 番	山 口
三一 番	田中 禄郎	三一 番	山 口
三二 番	田中 禄郎	三二 番	山 口
三三 番	田中 禄郎	三三 番	山 口

一、出席説明員

一、出席事務局職員

一、議事日程(第四号)

一、議事日程(第四号)

一、議事日程(第四号)

一、議事日程(第四号)

一、議事日程(第四号)

一、議事日程(第四号)

昭和五十年十月一日午前十時開議

認定第一号 昭和四十九年度館山市一般会計歳入歳出

決算の認定について

認定第二号 昭和四十九年度館山市国民健康保険特別

会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十九年度館山市と畜場特別会計歳

入歳出決算の認定について

日程第一 認定第四号 昭和四十九年度館山市国民宿舍特別会計

歳入歳出決算の認定について

認定第五号 昭和四十九年度館山市ユースホテル特

別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十九年度館山市学童災害共済事業

特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十九年度館山市水道事業特別会計

収支決算の認定について

開 議 午前十時三十分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十六名、これより第

三回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開

きます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和四

十九年度一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

認定第一号 昭和四十九年度館山市一般会計歳入歳出決算の認

定について

認定第二号 昭和四十九年度館山市国民健康保険特別会計歳入

歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十九年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決

算の認定について

認定第四号 昭和四十九年度館山市国民宿舍特別会計歳入歳出

決算の認定について

認定第五号 昭和四十九年度館山市ユースホテル特別会計歳

入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十九年度館山市学童災害共済事業特別会計

歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十九年度館山市水道事業特別会計収支決算

の認定について

質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） ただいま議題となりました各会計決算の
審議方法についておはかりいたします。

まず、認定第一号一般会計決算を歳入歳出一括して審議し、次
に認定第二号乃至第七号の各特別会計を歳入歳出一括して審議す
るという議事の進行方法といたしたいと思います。

これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、決しま
した。

これより認定第一号一般会計決算を歳入歳出一括して質疑を行います。

この際、申し上げます。発言のおりにはページをお示しくくださるようお願いいたします。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 文書で御答弁をお願いしたいというのがあるんですが、時間をさく関係で、市長、議長の交際費の内訳について、渉外的なもの内部的なもの、その中での食糧的なものと。

もう一つは、四十九年度の超過負担について、これは単価差、数量差、対象差そういうものを含めまして、教育関係で建設事業教材費、保育所関係では建設事業、運営費、農業委員会職員給料と農業委員の手当、それから国保関係では事務費、国民年金関係で事務費、公営住宅、その他公共事業に対する補助事業に対する超過負担の実情について。これは後刻文書で回答をお願いしたいと思うんですが。

次に、四十九年度決算について、決算は行、財政の総括でありまして、この総括の中から次の年度そういうところにも一つの資料になる問題でありますので、そういう立場からこの決算報告に対する質疑をしたいと思いますが、一番四十九年度決算で問題になっているのは、何といっても三億五百万円という歳入欠陥を出した決算だということだと思っております。

そこで、お尋ねしたいのは、監査委員の意見書についてですがこの監査委員の意見書の中には一番最後に監査委員の意見としてただ、これだけの歳入欠陥が出たのだから、解消につとめるといふようなことだけしか触れられておりません。

この問題については議会でかなり問題になったものであります。特に、私はこの問題については予算編成上の問題が一つあると思うんですが、地方財政法の第三条予算の編成の中でも歳入において、「地方公共団体は、あらゆる資料に基いて正確にその財源を捕そくし、且つ、経済の現実に即応してその収入を算定し、これを予算に計上しなければならぬ。」このように規定されておりますが、一中の跡地を売り払うということですが、当時一中は使用中のもので行政財産であったわけですが、しかも、二中との関係で当分一中の敷地は売らないという承諾書を入れておいたわけです。

それが、三月の予算に計上されて、七千万円ですか、支払う段階で中村さんが受け取らないで法務局に供託するということもありました。また、この過程で、ゆうれい会社が入札の払い下げの申請をしているというようなこともあって、かなり疑惑につつまれた問題もあったわけですが。

そういうことに対して、当時の市長さんは本間さんですから、今の市長さんにはこれは関係がないかもわかりませんが、予算編成の時点で、一体こういう問題を扱う上でどのように対処されたのか、決算でありますから、それに対して反省があるのかないのか。

また、監査委員は、監査の段階でこの問題をただ赤字の解消ということだけにとどめて何ら意見が付されておられません。こういうことについて、まず明らかにしてもらいたいと思います。

それからいま一つは、第十二款の財産収入の、監査委員の報告の中にあるんですが、二子新関の五百三十七番の一宅地九百八十

九・〇一平方メートル、約三百坪です。これを五十六万九千六百四十四円で払い下げております。これは監査意見書の十ページ、ほかにも三つぐらい払い下げをしていますが、大体ほかの坪数の単価をみますと、大体原野について一万八千円、雑種地については八千円とか、あるいは雑種地の中でも一万五千円と、大体単価はこのような単価になっていますが、この二子の新開の場合は単価千九百円と非常に安い単価になっておりますが、どのような事情でこのように安く払い下げたのか。その点をお聞きしたいと思います。

それから、同じく監査報告の九ページですが、この中には市営住宅の使用料について三十七万七千六百円が未収になっております。六万六千九百円が欠押に計上されておりますが、これについてもどのような状態なのか。これではわからないわけです。

インフレと不況の中で、かなり生活が困窮しているというような事情によって、この使用料の未納が出ているのかどうか。そういう点についてはわからないので、この点も監査の結果とすればそういうことを付さないで、われわれ判断に苦しむわけなんで、大体監査意見書をみますと、かなりそういう点で意見というようなもの非常に少ないと、もっと掘り下げてこの意見書は出すべきではないかというふうに考えます。というのは、監査の結果から次の年度の予算編成について、あるいは執行についていろいろ教訓を引き出すということから、そういうことが必要ではないか。この点については監査委員の御答弁をひとつお願いしたいと思えます。

それから、歳入の面についてですが、五ページの税の収入未済

額が三千五百八十八万九千八百六十九円、欠損額が四十一万三千三円、合計でこうなっておりますが、この中で、私が問題にしたのは、個人の税で八百十二万七千八百八十八円、滞納繰り越し分で百七十四万四千九百三十一円、こういうふうに収入未済額がかなり多く、欠損額にしても十三万というふうに出ていますが、これはやはりインフレ、不況の中でこういう未納がふえているのかどうか。もし、そういう状況の中で、こういう未納がふえているとすると、これから五十年度になっても相当歳入欠陥が生ずるのではないかというような心配もありますので、そのへんのことをひとつお聞きしたいと思います。

特に、固定資産税の収入未済額が滞納繰り越しを含めて千五百四十四万七千六百二十円になっております。欠損額が十六万一千円ですが、固定資産税の未納が多いということも、これはインフレ特に不況の中で、固定資産税の未納がふえているのではないかと。したがって、これは五十年度の歳入欠陥にかなり響くと思うんですが、こういう未納がどのようにしてふえたのか。この点も一つお伺いしたいと思います。

これと関連しまして、現在、固定資産の評価がえの準備が進められていくわけでございますが、これはせんだったの通告質問の中でもこの固定資産税の問題に触れましたけれども、時間がありませんので質疑を続けることができなかったわけですが、今、インフレと不況の中で生活も、経営も苦しくなっている。そういう中から未納もふえていると思うんですが、評価がえにあたってはこれらの事情を考えれば、かなり答弁では、国の一定の基準あるいは指示というふうなところが大きなウェイトになって

館山市の実情から評価がえをするというようなことがかなり低いように聞いておったわけですが、館山市の実情からみて、この評価がえについては慎重な態度でのぞんでもらいたいと思うわけですが、特に、住んでる土地、これは住むことを目的にしているわけですから、しかも生活が非常に苦しいという中で、住んでる土地に對する評価については相当やはり、平均して三〇%というけれども、かなり下回った評価をする必要があるんじゃないか。

それとは逆に、ゴルフ場とか、自衛隊の基地こういうようなところは広大な土地を持っているし、ゴルフ場は土地が一つの営業手段になっているわけですから、こういうところの評価は、大きな企業でもあるし、収益も上げているんですから、こういうところの評価は引き上げる必要があるのではないか。

それと逆に、住まいの評価はできるだけ低く、特に貸し地に對しては低くしないと借地、借家問題で紛争を起こすというようなことが現に起こっているわけですから、そういう点の手ごころを一筆調査の段階で加える必要があると思うんですが、それをどういうふうにお考えになっているのか。お聞きしたいと思っています。

それから、寄付金の問題は二五ページ、二千八百五十二万二千百二十二円の寄付金をとっておりますが、このうち舗装が千五百三十七万七千七百円、青年館が二百一十一万円、消防が五百十九万七千円、水産関係三百三十二万九千八百円このように寄付金が計上されておりますが、いつも問題にするのは、この寄付金が下で集められる場合に、多額の寄付金でありますと、どうしても割り当て的な寄付になっているわけでありまして、割り当て的な寄付というのは税のたてまえからいうと、非常に不公正な集め方でありま

すので、この点については地方財政法の四条の五項で嚴重にいましめていると思うんですが、五十年度の予算では道路舗装、そういうような寄付は一応これは予算編成の段階で出ておりませんが問題はないと思いますが、消防の寄付の四百七万円、水産関係で四百二十四万二千円の寄付が五十年度予算に計上されているわけですが、これはやはり決算の段階で、寄付の問題は一体どういう性質なのか。予算に計上すべきものなのかどうか。そういう点について疑義がありますので、御答弁をお願いしたいと思います。

大体、以上です。

〇議長（吉田勇治郎君） 二三番さんに申し上げます。監査委員さんがほかにいませんから、よろしゅうございますか。御答弁のほうは。

（「休憩」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午前十時二十三分 休憩

午前十時五十四分 再開

〇議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

〇市長（半沢良一君） 渡辺議員から市長交際費の内訳を文書で提出してもらいたいという御要望でございましたけれども、元来、

交際費というものは公共団体の長、その他の執行機関の長が業務執行のために必要な外部との交際上必要とする経費でございます。その使用は、使用者の判断にまかせるべきものでございます。

したがって、対内的とか、対外的とか分けることは不可能でございますし、また、行政実例等によりまして、監査委員会の監

査もその費用の性質上、監査することも妥当でないという、そういう性質のものでございますので、文書で提出することはいたいたくございません。でありますけれども、その収支につきましては正確に記帳、処理されていることを申し上げたいと存じます。

○議会議務局長補佐（石井敏夫君） 議長交際費につきまして御説明申し上げます。

交際費につきましては、四十四年から年額九十万円ということ で予算計上してございますが、年々増加する物価上昇ということ の中で議長の職務遂行に支障のないように配慮し、支出額におき まして六十八万六千五百九円ということで、予算残二十一万三千 四百九十一円というふうになっております。

○財政課長（長谷川広治君） 超過負担関係について御説明申し上げ ますが、本来、超過負担と申しまして、基準等によりまして 考え方が違いますが、私どもで出してある数字は、国の補助金、 県の補助金あるいはその他特定財源として収入をなすべきもの、 それから市の計算上の負担、それを差し引いた残りのものを超過 負担としての数字として出しております。したがって、対 象の差あるいは数量の差、面積の差等がいろいろあるかと思ひ ますが、四十九年度におきましては、ほとんど建築関係におきま しての単価差というものは大きな相違はございません。以下、項 目ごとに申し上げます。

国民年金事務につきましては八百三十万五千円、これは人件費 等がおもなものでございます。外国人登録事務につきましては百 二十九万九千円。公立の保育所の運営費でございます三千二百八 十一万八千円、生活保護の事務費十一万六千円、保育園の建設事

業百九十八万。ごみ処理場増築事業二百七十八万八千円。農業委員 会の事務千三百六十六万。公営住宅建設事業費百七十七万三千円。 消防施設整備事業費これは貯水池です六十五万七千円。一中防音 改築事業費五百六十九万七千円、二中防音校舍建築事業四千六百 二万一千円、国保事務千三百九十一万。国保の中に保健婦の指導 行政がありますが、それに対する分、これが百七十八万八千円で ございます。

○監査委員（五十嵐 昇君） 先ほどの一八番議員の質問の中に、 監査報告等が非常に簡単過ぎやしないかというふうな、もっと具 体的な細かい報告というふうな御意見があったわけでございませ けれども、監査委員といたしましては、個々もろん独任制であ りまして、各委員の意見は十二分に開陳して、なお委員長ともよ く意見調整のもとに御報告申し上げてあるものでございまして、 今までの報告は監査委員といたしまして、簡単ではありますけれ ども妥当なものであると、こう確信するものでございます。

したがって、そういう見解のもとに渡辺議員の御質問に対 して、私は妥当であるということでは何ら変更するという意思は毛 頭ないということを御報告申し上げたいと思ひます。以上。

○財政課長（長谷川広治君） 質問に対してお答えを申し上げます。

最初、土地の払い下げの予算計上が適正かどうかという御質問 の趣旨だろうと思ひますが、当初予算の議会にも申し上げました が、各種事業の財源から考えまして、当時の第一中学校の敷地を 売却処分をいたしたいということで予算に計上いたしましたわけ でございます。

執行の段階になった場合には、行政財産から普通財産に切りか

えて売り払いをいたす。そうして売却を受けた者から再度借り受けて、これを行政財産にするというような事務手続を予定をいたしまして計上いたしたわけでございますので、その段階におきましては違法性はございません。

それから、二番目の二子新関の土地の売り払い代金でございますが、これは旧九重村の隔離病舎の跡二百九十九坪程度でございます。これは元の地主さんが当時安く村に買われたというようなことから、農地として利用いたしたいので払い下げをしてもらいたいというような強い要請がございまして、いろいろ検討いたしたわけでございますが、市として不必要というような考え方からこれを旧地主に払い下げをいたすということになりまして払い下げをいたしたわけでございます。

御案内のとおり、道路等から相当奥に離れておりまして、電気水道そういうようなものの設備等もないわけでございます。約八十坪程度のうわものがこわれたままあったわけでございます。そういうような取りこわし、そういうものを考えまして、時価三千八百円と予定いたしまして、その二分の一千九百円で払い下げをいたしたわけでございます。

○防災課長（羽山房雄君） 消防の寄付金についてお答えいたします。

予算編成の作業に入る前に、大体各地区の要望をそれぞれの所在の消防分団を通じて、ポンプの購入あるいは貯水池の造成というものを大体取りまとめをいたします。取りまとめられまして要望のある個所については消防団本部において消防幹部がそれぞれ現地調査をいたしまして、それに基づいて緊急度あるいは必

要性の高いものから順次毎年充実、整備してまいりました。この際、各地区の御協力が団を通じて申し入れがあった。したがって、それを歳入に組み込んでいく。以上でございます。

○収納課長（館石勘治君） 住宅使用料の未納と欠損の件でございますけれども、三十七万七千六百円が四十九年度の未納になっておりますが、これは笠名地区で三名、大賀地区で四名、船形地区二名、それから館野地区一名というような未納者が出ているわけでございます。

それから、欠損額の六万六千九百円でございますけれども、これは二名の者が生活が非常に窮しておったので、あわせてそれは時効になってまいりましたので欠損をした。こういう状況でございます。

○税務課長（小倉澄男君） 評価がえの件につきましてお答えいたします。

これは昨日、御答弁申し上げましたとおりでございます。最終的には評価がえの基準というものはいまだ決定いたしておりません。しかし、これはあくまでもその基準に従いまして、市といたしましては評価がえをいたさなければいけないということでございます。

それから、先ほど渡辺議員が申されたような懸念でございますが、それにつきましては評価がえのときに対しまして、いろいろな三十八年以來の地価高騰に関連いたしまして、それぞれの施策が講じられております。その代表的なものとしたしまして、五十年度から住宅用地、それからさらに住宅用地を小さくいたしまして小規模住宅用地、小規模住宅用地につきましては評価額の四分

の一を課税標準にする。それ以外の住宅用地については評価額の二分の一でございます。半分を課税標準にせよという特例が設けてございます。五十年前からこれを実施いたしております。

そういうようなことからしまして、住宅用地はいわゆる所得をうまないんだ。実質的な所得をうまないんだというふうな観点から評価額の四分の一にしてあるわけでございます。

それから、貸し地についてはなんか操作できないかというような御質問もございましたが、これはやはり法的に規定されているとおりに、われわれは評価を決定いたしていかなければいけませんので、これはできない。

それからもう一つ、あくまでも評価額というものは、原則論といたしまして、地方税法に規定してございますように、適正な時価である。そういうようなことを念頭に置いていただきたい。

それから、もう一つのゴルフ場等の関連でございしますが、ゴルフ場用地等ということで、われわれが地目を区別する種類がございしますが、この場合にはスポーツ施設、娯楽施設等、遊戯施設等をつくりました大きな地域をさすわけでございますが、こういう評価に対しては、これも法律によりまして、その取得価額以外に、その上に土地を造成した造成費、それからいろいろ近郊類似の宅地等を勘案いたしました特別な評価額の算定方法がございします。そういうことで、県下各地のゴルフ場等を標準といたしまして、これを算定いたしておる。

しかしながら最近、ゴルフ施設、いわゆる娯楽施設に対する風当たりが強いというようなことから、自治省等におきましてもゴルフ場用地等の評価方法については今後検討して指示あるまで待

ってもらいたいというような通達もございしますので、ある程度の変更がなされるんではないかということでございますが、これはあくまでも予測でございます。

以上、たいへん簡単でございしますが。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 市長、議長の交際費の問題についてはまかされているんだから、まかされた者の判断でやってもいいというようなことですが、一応決算委員会ですから、決算の場ですからそういうような内容が、これはもちろんむだには使われていないと思うんですが、一応渉外的なものに割合とすればどのように使われ、内部的なものにどのぐらい使われているのか。使途についてはわれわれわかっていないわけですから、節約もかなりありますけれども、そういう問題については知らせる必要がある。われわれはまた、議員として知る権利があるという点では、この回答は非常に不十分ですね。

率直に言って、こういうものを出して、市民の前に明らかにしてできるだけこういう経費は少なくしていくというのがたてまえではないかと思うんです。

むろん、渉外的にはいろいろのことで交際費を使わなければならぬということは理解していますが、しかし、内容が全然わからないので、これはみんな知りたいと思うわけです。そういう点では非常に不満足ですけれども、市長の答弁では、なんか信頼してまかせろというようなことですが、決算の場では、これは当然そういうことが打ち出されていいんじゃないかと思いますが、もういっぺん答弁願います。

〇市長（半沢良一君） お答えいたします。

私は、交際費の本来の趣旨に従ってそれを使用していただいておりますし、その性質上、文書でお答えすることはさしひかえたいと申し上げたので、もし必要がございますれば、いつでも秘書課の方で帳簿も明確に記載してございますので、ごらんいただいております。

（「了解、了解」と呼ぶ者あり）

〇一八番（渡辺軍治郎君） その点については市長さん信頼してはいますが、一応こういう問題は、やはり決算の時期にはどうなっているかは当然これは知ることが必要だろうと思って質問したわけです。

次に、超過負担の問題は数字的に示されましたので、これはいろいろ超過負担の解消が叫ばれているときですから、こういうものを資料として、参考として今後の運動を進めるような問題に発展させていきたいというふうに思っております。

次に、監査委員会の監査委員のお答えは妥当だというふうに御答弁がありましたのですが、これはまた、別な問題ですから、問題の根本は、やはり予算編成時期の一中の跡地を売る問題について、御答弁では扱い方としては違法ではないということをいわれましたが、行政財産を売却する場合には、地方自治法で相当大きな制限を加えているわけです。なんか、普通財産にかえて、売った者から借りるというような小手先細工のような形でやっているかということ、執行上にも問題があると思うんです。

一番問題なのは、そういう行政財産を予算に計上しなければならなかったということを私はいつてゐるわけなんです。この問題は二中の敷地との関係がありまして、予算編成前に承諾書を取りか

わしているわけです。当分の間売らないというふうな承諾書があるにもかかわらず、予算に計上したということは、地方財政法の三条からみても非常に矛盾していると思うんですよ。あらゆる資料に基づいて厳正に扱わなければならないのを、そういう約束をしていながら、それを予算に計上したということで、そういうことで中村さんが七千万円の金を受け取らないで法務局に供託するという事件も起こっているわけです。そこに予算編成上に無理があったのではないかと。地方財政法の三条に基づくような、そういう慎重な態度で予算編成がやられなかった。

そこで、執行上の問題として、やはり行政財産を処分をするということとは法的にみても無理があるというような点も勘案されてこれは半沢さんが将来のことを考えて一応売却しないというようなことをいわれておりますが、そこまでいく過程では、先ほど申し上げましたように、払い下げ申請の中にゆうれい会社が登録されるといふような事件まであったわけです。そういう点で、かなり疑惑のもたれた問題ですから、こういうことについては予算編成の問題として、将来のやはり教訓をその中からわれわれは見出す必要があると思うんです。

反省しているのか。そういう問題はあたりまえだと、違法ではないんだという答弁だと、これは了解できないわけです。実際には、予算編成時点でそういう問題があったわけですから、そういう点の釈明をどうされるのか。

だから、当然これは監査委員会でもそういう点が明らかにされて、その上で赤字、歳入欠陥の解消に努力するようにという、そういう意見がつけられて当然だと思うんですよ。あいまいにそ

いうものをしたのでは将来の教訓にならないと思うんです。そこをお聞きしているわけで、今の市長さんの代ではありませんから当然助役、担当財政課長、そういう担当者の考えがあつてしかるべきだと思つていますが、そのへんはどういうふうに理解されているのか。

○財政課長（長谷川広治君） 事務的に私も考えますと、それぞれ計画等がありまして、売却をするような予算計上をいたしましたわけでございますが、たまたま年度途中において市長選が行なわれその結果、政治的判断で売却を中止したというような状況でございますので、手続的には私も違法性はない。どうこういふこともないというふうに考えております。ただ、解決と申しますか売却を政治的な判断で中止をいたしましたというようなことでございます。

○一八番（渡辺軍治郎君） 私が聞いているのは、予算を編成する場合に、あらゆる資料に基づいて厳正にその収入を算定しなければならぬという地方財政法の三条があるわけですよ。それに基づいて予算を編成していると思うんですが、一中の跡地の場合は問題があつたわけですよ。何度も繰り返すようですが、中村さんとの関係で問題があつた。そういうことでトラブルが起こつてゐるわけです。売り払い代金を相手を受け取らないで供託するといふ、そういう問題が起こつてゐるわけです。

そういう、なぜ売るような予算を組んだかという、その反省がないか。財政課長、ただ違法でない、違法でないといいますがね。この扱い方についてもかなり無理があると思うんです。

私がお聞きしているのは、予算を編成するときにこういう反省

がなければ、また同じようなことを繰り返すのではないか。そういうことも心配されるわけですよ。そこをお聞きしているわけですよ。

○財政課長（長谷川広治君） 中村庸一郎氏との間に取りかわした覚え書きによりますと、当分の間という文字だけでございます。

これは当分の間の考え方でございますが、大体私どもは半年程度というふうに普通は考えるわけでございます。これは長い期間ということであれば、それぞれ使う時期等も違いますが、当分の間というようなことでいろいろ市長等の意見を徴しました結果、予算計上いたしましたわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 一八番さん、申し上げます。おおむねこのへんで、他の質疑者が終りましたからお願ひしたいと思います。

（「今の問題これでいいんですけれども、続いてあるわけですよ。まだ終つたわけではないでしょう。幾つもある。まだ回答もらつてないでしょう。」の声あり）

○議長（吉田勇治郎君） 申し上げます。そのように取りはからわしてもらいたいと思います。会議規則の五十三条、五十四条を考慮して議長は申し上げます。

（「だからね、約束で五問ぐらいにしてくれということをいつてゐるわけでしょう。全部了承したわけではないでしょう。」の声あり）

○議長（吉田勇治郎君） この際、申し上げます。

質疑打ち切りでございます。一八番さんの質疑を打ち切るわけじゃございません。他の質疑者がまだ多くあるわけでござい

ますので、一応会議規則を準用いたしましたして、公平な発言を望むものでございます。発言を封ずるものではございません。

（「議事進行」と呼ぶ者あり）

（「いろいろの問題についてまだ締めくくりのもののまでいってないでしょう。まだ一つの問題質疑続行中です」の声あり。）

○議長（吉田勇治郎君） 休憩いたします。

午前十一時二十四分 休 憩

午前十一時二十九分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○一〇番（流山源次郎君） 昭和四十九年度の館山市歳入歳出決算

の事項別明細書の八ページ十九節負担金補助及び交付金の中にみえます二枚貝振興事業補助金、クルマエビ種苗放流事業補助金については、その成果について確信を持っていますかどうか。お聞きいたしたいと思います。

市の水産課としては、水産試験場等と連絡をとっていることと思いますが、館山湾における養殖事業は、特に二枚貝等の育成については水深、水温また水質等において適さないものかどうか。この点をお伺いいたしたいと思います。

第三点といたしまして、市が補助金を出して成果を得られなかったのは、青森県よりの輸送が無理なのかどうか。また、県二枚貝組合に市としては参加しておりますが、その中の結果によりまして、いろいろ二枚貝についての見解をお聞かせ願いたいと思います。

○水産課長（谷貝茂生君） ただいまの御質問にお答えいたします。

クルマエビの試験の結果をみますと、四十五年から実施をした

わけでございますが、放流前と比較をいたしますと、少なくとも三倍以上実際に水揚げをみておりますので、エビ網業者の生産は相当向上されておるわけでございます。特に、四十六年でございましたか、放流した中から三千尾だけを片眼を切って放流しました。いわゆる標識放流した結果から三%以上のものが実際に水揚げをみておりまして、県の試験場の追跡調査の結果からも四、五%は優に揚がっている。こういうことが報告されておりますので、今の水揚げ実績からいたしましても相当効果はあがっていると確信しております。

次に、二枚貝の問題でございますが、二枚貝は水温が十八度以上になりますと、死滅する可能性が出てまいります。館山湾の水温状況を今まで試験場でもって調べた資料によりますと、大体十二月から六月までの水温は大体十八度以下に保っておりますので、十八度以下の場合には死滅率は一%か、一%五の率だといわれておりますが、夏場は温度が二四、五度になりますので、越夏試験は今のところ成功しておりますが、大体六月から十二月までの期間をみますと大体適しているというふうに確信しております。

なお、この二枚貝の販売につきましても、今まで実際やってる人たちの努力によりまして、鋸南から鴨川まで販路が逐次開拓されてきておる。たまたま環境の悪化によりまして停止いたしました。これが、これはあくまでも館山に持ってくる輸送中の失敗ではなくて、こちらに導入してからの環境の変化、こういったものが原因であろうかと思ひまして、たとえば、導入した場合に、たまたま落葉して、その後一日、二日大雨が降って塩分があまくなった

じて、環境の変化の原因が好ましくなかったわけですが、大体生産地である青森の陸奥湾等におきましても、今年は三十数億の被害が出ておりますが、原因がまだはっきりつかめないということ、あまりに養殖の数が多くなり過ぎて環境の変化が原因ではないかということがいわれておりますが、たまたま館山におきましても異常水温の高騰があったということでございますが、これは毎年あるわけじゃございませんので、一時的な環境の変化、こういったものがわざわざいしたのではないかと思いますので、一応種苗を購入しての企業としては今後考えられるのではないかと思います。これは一応推定しております。ただ、夏場を越すことはできませんけれども、持ってきたやつを一時蓄養してある程度成育することとははっきりしておりますので、大体企業として今までの全国の状態をみましても、東日本は石川県、それから太平洋岸は逐次南下して現在東京湾までのびてきておるわけでございますが、これが企業として継続的にやっていくということであれば、新しい企業が生まれるという観点からいたしまして、この環境等から今年に失敗いたしましたけれども、今後企業として成り立つんではなかろうかと、このように考えております。

〇一〇番（流山源次郎君） 私の質問に対してくわしく答弁いただきました。感謝いたします。

今、水産課長の答弁につけ加えますと、館山湾といたしまして、県の水産試験場がなせホタテ貝を館山に持ってきたか、水温に弱い、半年しか生存価値がないホタテ貝を県の水産試験場が持ってきたかという、商品価値としてアサリとか、ハマグリなんかというのは平均化しておるものでございまして、どこにもあ

るということ、青森県、岩手県、北海道がちょうど十二月から五月にかけては貝が冬眠期に入るために貝の成育がとまると、その時期をねらって、館山湾においてはちょうど北の最盛期の水温になるといって、むこうの出荷のある程度すりかえをねらったときに、館山湾においてホタテの養殖をしたら採算がとれるのではないかということでございます。われわれといたしましても市のほうから非常に高価な補助金をいたしまして、それは直接私どもがじかに受け取るものではなくして、船形の漁協がそれを受け取って、われわれの成果に対して漁協より補助金が手渡されるという結果でございますので、その間において先ほど課長さんからお話しがございましたとおり、三年間は非常に養殖上の事故でなくして、予期せざる大雨とか、また水温の急上昇という非常に湾内の予期せざる変化のために大きな赤字をされてしまったのであります。十何年間の漁協と試験場が相たずさえたところの試験段階を終わって、個人においてそれが得たということは、決して商品価値が出たということではなくして、館山湾においてはどうして販売したらいいかという疑問が非常にあったのでございまして、館山湾でこういうものがあるということがわかっていながらこれが消費されないということ、結局、早くいいますれば、個人個人におきましてその販路の開拓ということに大きな議題があったのであります。

ところが、三年間の不漁によって、非常に赤字で困ったときに県また市の補助金というのが三年間、今日の見通しがあるまで持ちこたえた大きな一つの原因かと思っております。

現在の状況を申し上げますと、本来ならば今年も入れる予定でござ

いますが、青森県で全滅してしまったという状況がございますので、この原因を確かめてから、来年度から再度取り組みたいという考えでございますが、この間において、販売経路はどうかといえますと、非常に先ほどのお話しのとおり需要が相当伸びましてこのままやっておれば当然採算がとれるのではないかという總が出たことを伝えまして、今後、水産の大きな養殖事業という面に対しまして、市のそれなりに、そのときどきの情勢に合った補助なり、また援助の手をお願いいたしまして、私の質問を終わりたいと思います。

〇 一六番（安西益男君） 若干、お聞かせ願います。

三八ページ十九節の負担金補助及び交付金のところの国道一二七号バイパス建設促進協議会負担金四万円、毎年出されておるわけでございますが、昨今、この問題がだいぶ進行しておるというふうに聞いておりますが、たいへん大きな関心を寄せられておる問題でありますだけに、その後の進行状況をお聞かせいただきたい。

それから、四一ページ十九節安房郡市広域市町村圏事務組合負担金総務費として六百八十四万七千円、この広域圏に対する負担金はほかにもあります。含めて大体一億二千万若干になると思いますが、五十年度は一億五千万なにかしということになっております。

昨今、市町村圏に対する負担金の問題、さらに内容的には町村の消防関係、諸般の問題点について強い要望が寄せられておると負担は館山がだいぶしよってあるけれども、そうした町村の意向が強くなってきて、このままではどうかという、そういった時点

にきているのではないか。この点はよくひとつ十分考えていたいただきたいと思うわけですけれども、現在までのそういった町村との状況の関係をお聞かせいただきたい。

さらに、不燃物処理場運営費ということでございますが、これは広域圏における不燃物の処理関係はどうなっているか。これは館山市の不燃物の処理場のことだと思いますが、広域圏の不燃物の処理状況を合わせてお聞かせいただきたい。

さらに、四六ページ十九節負担金の関係でございますが、防犯協力会に対する防犯灯設置補助金四十五万、今年は五十万ということでございますが、毎年大差なくこういった補助金が出されておるわけでございます。

防犯灯関係には毎回要望しておるわけでございますが、この点につきまして、前回の予算委員会でしたか、市長さんの考えとして、現在約九十灯若干の要請がある。これを何とかかなえたいというようなおことばがあったわけですが、その後の、やはり本年度は五十万ということでございます。非常にこれは強い要望でもありますので、今後これをどうして行なっていくか。その点も合わせてお聞かせいただきたい。

いま一つ、お聞かせいただきたいことは、六九ページ楠見川の滅菌装置の工事費の關係でございますが、滅菌器はどん川、汐入川等にもあるわけでございますが、その効果についてお聞かせいただきたいし、なおまた、かに丸川の個所にもこれは要望してありますけれども、その後の処置をどうされるか。その点、お聞かせいただきたい。

以上の点につきまして、お願いしたいわけでございますけれども

も、公害関係の対策としまして、そういった河川の汚濁の問題、海水の汚濁、こういった問題からやはり公害対策に対する方針と合わせてお聞かせいただきたい。以上でございます。

〇土木課長（飯田治男君） 第一点の国道一二七号線のパイプスの状況につきまして御説明申し上げます。

今までは調査費がにつきまして航空写真だとか、いろいろ計画を進めてまいりましたが、本年度一千万の事業費がにつきまして、これからその細かい測量をいたしまして、それによりまして今後用地の買収等に取りかかるというところまでできております。

先日、議会の建設委員並びに都市計画審議会の委員の方々に、一応国道事務所のほうから説明会を開きたいからということでありまして、ある程度の、図面の上で立てました計画についての説明があったわけでございます。現在、都市計画道路としまして環状線、船形大賀線の計画決定されておりますが、大体その計画道路を利用するというふうな考え方であるようでございます。

〇企画課長（小沢正治君） 御質問の第二点の安房郡市広域市町村圏事務組合の負担金に關しまして、御質問の要旨が、町村側の負担金の割合等について不満があるんじゃないかというふうな御趣旨のように伺いましたわけでございますが。

〇一六番（安西益男君） 不満というより負担金のわりに町村は少ないわけですよ。ところが、要望のほうが強力ということ、ここでは十分考えなければならぬのではないかという時点にきているんじゃないか。その点について、今後のあり方はどうしたらいいかということですよ。

〇企画課長（小沢正治君） 負担金の関係につきましては、そのつ

ど、ここに掲げてございます種目別にそれぞれ負担金のかけ方の割合について、そのつど議決して了解を得ておるわけでございますが、たとえば、総務費につきましては均等割が二割、人口割が八割、民生費につきましては全額人口割というふうな形でそれぞれ決定をいただいて、町村の了解は得てあるわけでございますけれども、町村側の要望が強いという関係は、やはり常備消防の関係で分署、分遣所の位置とか、増設とかそういう関係で、いろいろ要望があるやに伺っておるわけでございますが、最近におきましては、当初の広域圏の計画といたしまして残っておりますのが富浦分遣所の建設が四十九年度事業から五十年に繰り越されまして、最近、結着をみたわけでございまして、それによりまして一応解決するというふうに考えております。

その他の関係につきましては、町村の要望があつて市町村事務組合のほうでその対策に苦慮しておるといふうなことは伺っておりません。

〇衛生課長（石井 謙君） 不燃物関係につきましてお答えいたします。

不燃物は、安房郡市広域市町村圏から館山地区といたしまして館山市から三芳村、この二つで館山市の焼却場にございます施設で、四十九年度におきましては八千五百五十キログラムのプレスを行なっております。これはあくまでも広域市町村圏から館山市が委託を受けて実施しておるような状況でございます。

〇防災課長（羽山房雄君） 防犯灯設置についてお答えいたします。四十九年度は四十五万円をもちまして、一灯当たり一万五千元の範囲で設置補助を出すということで大体三十灯建設されました。

五十年度におきましては、この予算を五十万いたいたためにこれが三十三灯設置できるということで目下大体設置を終ったところでございますが、目下精算中でございます。

なお、御要望ごもっともでございますし、地区の要望も先ほどから申されましたように数あるわけでございます。現在いろいろと財政的な面等を検討いたしまして、極力この増額分をはかっていきたい。こう考えております。

〇衛生課長（石井 謀君） 楠見川の波菌の關係についてお答えを申し上げます。

これは、海に流入いたします河川、これを波菌いたしまして、海水の汚染を防止するというような考え方でこれを実施したわけでございますが、楠見川につきましては次亜塩素酸カルシウムで浄化をはかうというものでいたしたわけでございますが、この問題につきましてはいろいろ学説等もございまして、大腸菌の問題が海水汚染に大きく響かないというようなこともあるわけでございますが、私もはあくまでも厚生省あるいは環境庁等、あるいは県こういうようなところからのいろいろな指導を受けながら大腸菌そのものについては大きな病原菌にならないというようなことでございますが、大腸菌の多いところについては病原菌、細菌が非常に多いということで、こういうような海水汚染の対策として河川の波菌装置を行なっておるわけでございます。

かに九川については、現時点においてはまだ計画はございません。

〇一六番（安西益男君） バイパスの件でございすけれども、これはやはり問題が大きいだけに国、さらにまた県そういったところ

ろに積極的におやりになっていると思ひますが、一段とこの促進には市をはじめとして皆さんはかつてやっていただきたい。このようにお願いいたしておきたいわけです。

それから、広域圏の仕事の内容ということでございますけれども、スムーズにいってゐるようなお話してございますが、たいへんそういった意向等も聞くものですから、館山中心主義ではないかというそういった声を聞くことも事実でございます。負担を出しているわりには町村のほうの、極端にいうとわがままが強いんじゃないかというそういった傾向があるのではないかというふうに聞いておりますので、十分気をつけていただきたいと思ひます。

不燃物の件でございますが、作動しておるかどうか。効果的にどうかということでございますが、これはできたものでございますから、私は効果あるような方向に進めていただきたいわけでございます。

それから、防犯灯の件でございますけれども、重ねてお伺ひするわけですけれども、市長さんは百万ぐらい何とかなるんじゃないかという、たしかそういった意向も伺っておりますし、財政緊迫ということばかりですが、人命にかかる問題でもありますし非常にこの件につきましては毎度申し上げておりますように、犯罪の防止という面、さらには交通事故防止という面、非常にそういった点では一段とその方向について強力に進めていただきたいと思ひますが、その点、市長さんにもう一べん、方法を聞かしていただきたいと思います。

〇市長（半沢良一君） 安西議員さんの御要望、そのとおりのものと思ひます。先般の議会でも申し上げた記憶がございますけれども

も、格段の努力をはらいまして、極力増設の方向に努力いたしましたと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 午前の会議はこれにて休憩し、午後一時開会いたします。

午前十一時五十九分 休憩
午後一時 二分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十三名、休憩前に引き続き会議を開きます。

御質疑を願います。

○一四番（石井輝久君） 若干、質問申し上げます。細部にわたりましては、やがて設置されます決算審査特別委員会の付託にゆだねたいと存じます。

歳入面に限って御質問申し上げます。全体からみまして歳入の収入未済額が一億円余りということでございます。その内訳は教育費で五千万余り、これは繰り越し明許費等です承しておりますけれども、残余の市民税で千三百九十九万七千円余り、さらに固定資産税で一千万円余り等がございます。これにつきまして質問したいと思えます。

それから、地方交付税、当初計上いたしました九億一千万、これが八億六千八百四十八万八千円ということになっております。これらについて質問したいと思えます。

まず、館山市歳入歳出決算事項別明細書の五ページ歳入でございます。第一項市民税一目個人市民税中九百八十三万二千円余りの未納がございます。そしてその内訳が滞納繰り越し百七十万余りと、これとは別に八百十二万七千円余りの収入未済でございます。

す。これはそれぞれ担当の課のほうで御努力なすったであろうということは承知しておるわけでございますけれども、どういうわけで、こういう収入未済がこういう額にのぼったか。それぞれについて御説明をたまわりたいわけでございます。

引き続きまして、市民税中の二目法人でやはり滞納繰り越し六十四万九千八百八十円、現年度分収入未済で三百五十二万余りでございます。これもまた個人同様にそれぞれ原因を説明を願いたいと思えます。

続きまして、固定資産税でございます。固定資産税が千五百四十四万七千円余りのうち、三百九十九万五千円余り滞納繰り越しでございます。これも市民税同様にそれぞれ、それぞれということば滞納三百九十九万余りと、収入未済の千五百四十四万二千円余りそれぞれの原因の御説明を承りたいのでございます。

その他の点につきましては冒頭申し上げましたように、委員会の審議にゆだねたいと存じます。

冒頭申し上げましたように、今年度収入未済額が一億二百万余りでございますが、大体国庫支出金の教育費の五千万余りの収入未済を除きますと、大きいのが市民税、固定資産税この二つになるわけでございます。そこで、両方質問申し上げるわけでございます。御答弁によりまして再質問いたします。

○収納課長（館石勘治君） 収入未済額につきまして御説明申し上げます。

まず、個人市民税の現年度分が九百八十三万二千九十九円の未済額を生じたわけでございますけれども、これは御承知のとおり四十八年度の経済変動が大きな原因になっておるのではないかと考

えております。この個人市民税の滞納の中に二件、二百万程度の滞納があるわけでございます。この滞納を調べてみましたら、四十九年度の二期、三期以降は滞納になってまいっておるわけでございます。したがって、ただいま申し上げた経済変動がそういうことに大きく響いてきているんじゃないかと、こう考えておるわけでございます。現在、この滞納につきましては整理、督促をいたしまして、月々納付させ、整理しておる現状でございます。滞納繰り越し分の百七十万四千円でございますが、これにつきましては過去の滞納が累積されておるわけでございますけれども、この中に滞納処分と申しますか、差し押えされておったもの等もございまして、これらについてはただいま申し上げましたとおり、納入可能と思われるものについては差し押えしながらこれを納入しておるといふ現状でございます。

それから、法人市民税の関係でございますけれども、法人市民税も現年度三百五十二万三千円の未納額があるのでございますけれども、その中に百五十万円の大きな法人市民税が未納となっておるわけでございます。これとても、先ほど申し上げました方法をもって現在整理をしておるわけでございます。

それから、法人市民税の繰り越し分についても、個人市民税と同じような方法を講じまして整理にあつております。

それから、固定資産税の千五百万のうち、現年度分千五百四十二万二千円の未納額でございますが、この固定資産税につきましては約五名程度で八百万程度の税が未納になつたわけでございます。

これも、個人市民税で申し上げましたとおり、これらの未納の現状をみますと、四十九年度の三期、つまり四十九年十二月以降

が滞納になっておるといふような現況でございます。

しかしながら、現在におきまして、個人市民税及び固定資産税合わせて滞納者は同一人が多いので、これらは月々の分納誓約と申しますか、分納で納入させておるといふ現状でございます。

それから、固定資産税の滞納繰り越し分についても現在そういう各税目ごとにならないとして、それぞれ整理をしておる。こういう現況でございます。

○財政課長（長谷川広治君） 交付税関係について御説明申し上げます。

四十九年度の交付税関係でございますが、当初予算に普通交付税として八億三千四百万、特別交付税として四千五百万を計上いたしたわけでございますが、その後大幅な人件費の改定がございまして、これに対する普通交付税分として三千百七十五千円を追加計上いたしたわけでございます。

最終的な決定といたしまして、五千六百八十六万四千円の減額ということになりました。大きな原因は、第一中学校、第二中学校の建築事業費が工事が遅れまして、と申しますのは、国庫補助の認可が遅れたために、この事業費補正が普通交付税分から落されたということに相なるわけでございます。この額が四千二百七十五万でございます。三月いっぱいにかかっていろいろ国の責任を追及したわけでございますが、どうしてもこれしか認められないということでのこの額が落ちたものでございます。

したがって、交付税全体として四千八百五十八万七千円ばかり減額収入ということになったわけでございますが、その事業費を差し引きますと、五百八十三万七千円が通常の減ということにな

ったわけでございます。これは人件費の改定が大幅にあったために、私どもで三千百六万ばかり追加計上をいたしましたわけでございますが、これほど交付税計算が伸びなかったということであろうと思います。

〇 一四番(石井輝久君) 再質問いたします。

質問に対する答弁で、それぞれの原因別という質問を申し上げたんですが、詳細な原因別という御説明はなかったように思います。しかしながら、大体的な内容は把握できるような感じがいたします。四十八年度の国全体の経済の変動から減収をきたしたというところでございます。

それから、法人税にしても、固定資産税にしても四十九年度三期以降に、しかも同一人が多いという、これは滞納繰り越してございますが、御説明でございます。

いずれにいたしましても、御説明にもありましたように、国全体の経済不況のしわ寄せが館山市にも及んできた。こういうふうに考えるわけでございますが、不況の深刻化をこの計数が物語っております。

先ほどの収納課長さんの答弁の中にもありましたが、滞納繰り越しは過去の累積がそれぞれ計上されておるということでございます。当然でございますけれども、滞納繰り越して過去の分があるとするならば、これはある時点で不納欠損等の処置をしなければならぬんじゃないかなんかろうかと考えますが、こういう点は他の機会にゆずるといたしまして、私はこの数字をもってながめるときに、館山市民の個人個人、法人でもそうですが、担税能力の限界まできておるんじゃないかなんか。こういう感じがあるわけですよ。

経済不況、事業不振原因はいろいろございます。私の感じでは個人個人の市民の担税能力のリミットにきているんじゃないかなんか。こんな感じがしてならないわけでございます。大きくこういう点に関します。収納課長さんというよりも市政の衝にあたっております。市長さんの御見解を承りたいと思うのでございます。

大づかみに、歳入面で以上、御質問申し上げます。

〇 市長(半沢良一君) 市民の担税能力が限界にきているのじゃないかという御見解の御質問でございますが、限界にきているかどうかということについては、私は確信を持ってませんけれども、相当困難な状態になってきておるといことはひしひしと感じられるわけでございます。

しかし、何と申しましても、税が市財政の基本でございますので、滞納している方々とよく十分話し合いをいたしまして、強制執行という無理なことはなるべく避けて話し合いをして、多少の無理はもちろんしていただかなければなりませんけれども、十分話し合いの上で、納めていただくようにしていきたい。そういうふうに収納のほうを指導していきたいというふうに考えております。

〇 一四番(石井輝久君) 大体、市長の答え得る限界がやはりそこらだろと思うのでございますが、いずれにしても限界かどうかという解釈はいろいろございますけれども、市民生活が苦しくなっているということは、やはり数字が物語っておると思います。

ただし、ただいまも答弁にありましたように、市の財政の相当部分、重大な部分を占める市税でございますから、苦しいからそのままほうっておいてもいいということにもならないかと思いま

すが、ただ、市民に苛政訴求というような実感を与えないような方法で今後処していただきたいということを要望いたすわけでございます。

それから、参考のためにもう一点だけ伺います。五ページの法人市民税収入未済額三百五十二万三千百五十五円でございませうけれども、備考欄で均等割千六十二件ございまして、これの総額が二百七十六万九千七百二十円となっておりますが、これは収入でございましょうが、法人市民税の均等割はたしか資本金の一千万以上と、そうでない法人と二種類あると思いますが、千六十二件の内訳ですか、これは税額がそれぞれ資本金によって違うと思いますので、何件が資本金一千万円以上であり、そうでないものがこのうちの何件あるか。参考のためにお聞かせ願います。

○ 税務課長（小倉澄男君） お答え申し上げます。

法人の資本金別事業所数といたしまして、四十九年度中が一億円以上が五十六件、これは内法と外法ということがございまして館山市内に事業所の出張所を持っておりまして、本店は東京というようなものが外法と申します。内法といいますのが、館山市内に本店を有するものということでございますが、それを合わせまして一億円以上が六十一でございます。

合計した数がございせんので、まず、外法につきまして申し上げます。外法につきましては一億円以上が五十六、一千万以上が五十七、一千万未満が六十七、それから保険関係が十、公共法人が四、全部合わせまして百九十四に相なります。

それから、内法が一億円以上が五、一千万を越すものが四十でございます。それから一千万未満が八百五十五でございます。公

共法人が六十、合わせまして九百六でございます。

そのほかに宗教法人が二つございます。合計千百に相なります。ちょっと、横の計が出ておりませんので、目計算で申し上げますので。

○ 一四番（石井輝久君） ちょっと、均等割で件数が合わないような気もしますが、これは改めて質問申し上げます。

以上をもって質問を打ち切ります。

○ 一五番（辻田 実君） 大体、質問が出たようでございますので収入、歳出合わせまして、それぞれ四、五点について伺いをしたいと思います。

その前に、全体的な質問といたしまして、一中の売却ができなかったために多くの歳入欠陥が生じてきたわけでございますけれども、これに対しては予算編成時点からすでにいろいろな論議があったわけでございまして、八月議会でも論議されたわけでございまして、その細かい各論についての説明がまだ十分でございまして、その点について継続してお伺いしたいわけでございまして、予算編成時点からかなり売却の不確定な見込みをすることはよくない。さらに、先ほどの質問ありましたように、一つは、まだ授業をやっておる校舎そのものを売るというようなことについて問題があるというふうな論議がございまして、できるだけこのものについては、他の収入、さらには支出を抑制する中において、できるだけ売却しなくても済むように努力していきたいということが予算議決にあたってつけ加えられておるわけでございまして、そういうような観点に立って努力がされたと思うわけでございまして、それがどのような形で、どのような施策

の形で重点的に行なわれたかということについて、市長の所信を伺いたいわけでございます。

特に、全体的な款項目をみますと、労働、消防、教育について当初予算が減っておりますわけでございます。主として当初予算より大幅に一億円近くの増をみておるのが総務、衛生、民生になっておるわけでございますけれども、特に私が申し上げたようなものについて、ここで改めて質問したいことは、収入についてはその収納率が九〇・四％ということが報告されておるわけでございます。それに対してまして、支出のほうは九七・三％ということでございます。それから、一般的にいいたしても、当初からこのような歳入見込みの不確定のものについて回収していくという方向について、なんかそういう対策なり、そういうものが施策がみられないような気がするわけです。むしろ逆に、収入のほうが九七％でもって、支出のほうが九〇％におさえていくということであれば、歳入欠陥ということが出ないわけでございますけれども、そういった点の政策なり、方針なりがうかがえないやにみえるわけでございますけれども、この点についてどういう姿勢であるか。どういう施策を講じたのか。そこらへんについて基本的な問題についてお伺いしたいと思うわけでございます。

細かい点になりますけれども、七ページでございます。補正予算の中でも組まれておりますけれども、四項一目のたばこ消費税でございますけれども、全体的にはたばこの消費は伸びておるということでございますけれども、ここでかなりの補正減を組んでおるわけでございますけれども、結果的には、当初予算そこそこのまで追いやられたわけでございますけれども、どういうことなのか。

か。その状況について少し説明をいただきたいと思えます。

それから、一一ページ九款一項の一目民生使用料の収入の中でございますけれども、老人福祉センターの利用がかなり高まっておりますというように聞いております。さらには、これらに対するとおる自動車の、それらに対するとおるの輸送の補正予算それらも組まれておるわけでございますけれども、予算的には一昨年三十二万一千円から去年が十九万二千円と、今年はさらにそれを下回って当初予算よりも若干減った十八万五千七百円という事になっておるわけでございますけれども、これは利用が減っているということなのか、どういうことなのか。一般的には老人福祉センターの利用は高まっているというように伺っておるわけでございますけれども、こういう数字が出ておるわけでございますけれども、これはどういうことなのか。お伺いしたいわけでございます。

次の二目の土木使用料の中におきまして、住宅使用料がかなり未収額がありますし、当初予算に対して現年度分が千二百万ということがあるわけです。当初予算の現年度徴収額にも収入滞りが満たないわけでございますけれども、これらについては常に徴収体制そのものがいろいろと論議になっておるわけでございますけれども、そうした点についての改善方法についてまだ十分じゃない点があるんじゃないか。昨年度分だとか、そういう面についてなかなかとれないというものが繰り越されているのらないんです。が、過年度分はおろか、当初予算の額も収入できないということについては、若干そこらへんのところに問題があるというふうにうかがわれるわけでございますけれども、このへんの事情について

てお伺いいたします。

それから、一二ページ手数料の中におきまして、二、三年前から始まったところのサインというんですか、署名登録というんですか、これの件数と額は証明手数料、その他の中に入っていると思うんですけれども、この内訳がわかりましたら教えていただきたいというふうに思います。

と同時に、二目の衛生手数料の関係については、こういう相殺をしなければならなかったのか。こういう形をとってまいりますと、予算編成的に自然に赤字を増大させるというような形が出てくるんじゃないか。どちらでも方法によっていいと思うんですけれども、今年の場合には、とにかく館山市におきましては一中の売却三億の穴埋めをどうするかという非常に大きな使命を持たされたような状況の中において、むしろここでもって公社が設立されたわけでございますから、公社移行については、やはりし尿手数料についてここでもって百万近くの収入減というものが出ちゃうわけでございますから、両方相殺といえれば相殺といえるかもしれませんけれども、一中をめぐっての歳入欠陥、今年の場合には繰り上げ充用をするということについての配慮が足らなかつたようにうかがわれるわけでございますけれども、こちらへんについては何のようなお考えと経過でこのような処置をされたのかこの点についてお伺いをいたしたいわけでございます。

それから、支出の面に移りまして、五八ページ八節報償費の中の母子家庭児童入学祝金でございますけれども、これに対しては市の見積り違いをしたような感が受けられるわけでございますけれども、この点について内容を少し御説明願いたいと思います。

それから、五九ページの奨学資金貸付金でございますけれどもこれに対して補正も出ておるようでございますけれども、今年の場合、減ってきておるわけでございますけれども、補正予算の中でもってかなり補正されたから、そこから討議されておりますけれども、この奨学資金貸し付け制度の執行内容、状況について御説明をいただきたいと思います。

六七ページ、十九節負担金の中でもって安房医師会の補助金ということが出ておるわけでございます。これについては当初予算でもって休日診療の算出方法等について一定の額というんですか、数値が出ておったわけでございますけれども、大幅にこれがふえたわけでございます。これは休日診療というような形の中で当初予算に組まれおったわけでございますけれども、休日診療の時間なり、回数そういうものの強化があったのかどうか。途中において支給率、額というものが変更になったのかどうなのか。そこからへんについて、当初百六十一万七千円から、年百二十万ほどふえておるわけでございますけれども、かなりの数値の食い違いがございますので、こちらへんについてその御説明をいただきたいと思います。

七三ページ委託料百万に対して不用額五十二万六千九百円というところでございます。固定資産評価委託料でございますけれどもこの点については水道事業の固定資産評価云々に対する委託料だと思えますけれども、その後水道問題についてはいろいろと論議が出ておるわけでございますが、当初百万という委託料を盛っておったわけでございますけれども、半分の執行に終わったということとは、一面では非常にけっこうなことと思われまますけれども、い

ろい非常に大きな問題になっておるところの水道関係の固定資産評価、その他の問題でございますので、これらに対して十分な執行であったのかどうか。そこらへんについて若干の懸念がされるところでございますので、そこらへんの不用額の大きいところが気になるわけでございまして、そこらへんを少し御説明をいただきたいと思います。

それから、八七ページの十一節需用費でございますけれども、この修繕料でございますけれども、当初の予算でございますすると街灯につきまして三十本ということであつたわけでございますけれども、当初予算が四十五万ということでもって半分に減つたわけでございますけれども、当初予定しましたところの三十本の街灯についての修繕は滞りなくできたかどうか。あまり額が狂い過ぎるので、街灯の問題は大きな問題でございますので、修理が安くあがるということにけっこうでございますけれども、三十本全部予定されたものが執行されたかどうか。この点についてお伺いしたいと思います。

市長（半沢良一君） お答えいたします。

昨年来、非常な不況が深刻化してまいりまして、経済成長の低下に伴いまして、財政の収入の伸びが鈍化した一面、人事院勧告による二九・六四%という賃金の改定もございましたし、そのほかに時代の要請に従いまして福祉等の行政需要の増大、公債費等義務的経費が増高した、そういう状況でたいへん苦しい状況にあつたわけでございます。

そこに、御指摘のとおり、予算に組んでございました一中の売

却を、いろいろ長い目でみて売らないほうがよからうという判断から売らないことにいたしました。そういったような事情も重なりまして非常に苦しい財政状況になつたわけでございますけれども、そうした財政状況を切り抜けるために、経常的経費の節減とか、補助金の再検討、職員の欠員不補充というような全般的な行政経費を節約、合理化を重ねて、さらに市税の確保、地方債の積極的な活用という、そういう収入の道をはかりまして、財源の重点配分と経費の効率化につとめてきたわけでございます。

どこに重点を置いたかということでもなしに、行政はやはりパランスがとれた行政を行なわなければならないということから、本間前市長の残された基本施策である産業、教育、観光、福祉の四つの柱を中心にいたしました。施策を進めてきたわけでございます。

なにぶんにも、市長に就任いたしましたまだ四カ月しか間がございませんでしたので、十分徹底いたさなかつたかと思ひますけれども、極力、三億の赤字を解消するための努力をいたしたつもりでございます。

今後も、決算とは関係ございませんけれども、今後も市政執行におきましては三億の解消をして、今年度五十年度は財政再建の年にしたいというふうに考えて今、市政にあつてゐるわけでございます。

以上、御答弁申し上げます。

○税務課長（小倉澄男君） たばこ消費税のことにつきましてお答えを申し上げます。

これは当初予定いたしました額に、結果的に辻田議員が申され

ましたように昨年より約一%弱の減というような形になったわけでございますが、その各月別の伸張率をみてみますと、結論的に申し上げまして当初四月八月ぐらゐまでは非常に伸張率が少なかったのですが、八月頃から前年対比二%程度ずつ伸びていったということで当初予定達成は可能ではないかということ、年度末まで待ったわけでございますが、その後十月―十二月の伸張率が思ったほど伸びなかったということで、結果的に四十八年とほとんど同額ということで三月の補正で、いわゆる昨年と同じ予算の額に調定を補正したという結果でございます。実質的にたばこの消費が伸びなかったということでございます。

○福祉事務所長（山口 一君）

老人福祉センターの使用料につき

まして御説明申し上げます。

御承知のとおり、老人福祉センターは六十歳以上の方に、いわゆるお年寄りの方に使用していただくというような施設でございます。まして、市内の六十歳以上の方ににつきましては無料でございます。一昨年の資料を持ち合わせておりませんので、どのぐらいの伸び率かわかりませんが、老人の方の利用は確かに上昇しております。使用料をいただきますのは、老人の方以外の方からいただくということ、四十九年度はこのような数字になったわけでございますが、御参考までに利用の数を申し上げますと、市内の老人の方で一万六千五百二十八人の御利用をいただいております。一般の方で千九百九十四人でございます。市外の方で御利用いただいたのが八百六十名このようになっております。

○収納課長（館石勘治君）

住宅使用料の件について、住宅使用料は未納が多いんではないか。こういう御質問のように承りました。

けれども、けさほど未納の数は約十名になっておることは御報告申し上げましたが、成績が上らないんじゃないかという御質問のようにも思われますので、実は、住宅に入っている世帯というのが夫婦ともかせぎこういう世帯が非常に多いわけでございます。したがしまして、しょっちゅう徴収員がまいりますしても会えないのでございます。私たちは納入組合等に入るように、あるいは手紙で督促をしたりしておるのでございますけれども、なかなか返事がない。応答がないというのが現状でございます。

したがしまして、今後、あるいは夜間にうかがったらどうかというようなことまで検討しておるのでございますけれども、夜間徴収のことについては多少疑念もございますので、そういうこと等はまたわれわれ研究しまして、そうした方向に踏み切れたら、夜間徴収の方法等も考えていきたい。こういうふうに考えております。

○市民課長（横溝 功君）

一二ページの総務手数料の諸証明手数料中、サイン証明が入っているんじゃないかという御質問

でございますけれども、諸証明にはサインにかかわるものはいません。扶養証明、身元証明、無職証明、公課証明、資産証明、課税証明というものは申請がございまして、サイン証明に関するものは申請がございまして、サイン証明はサインにかかわるものはいません。扶養証明、身元証明、無職証明、公課証明、資産証明、課税証明というものは申請がございまして、サイン証明はサインにかかわるものはいません。

○衛生課長（石井 謀君）

衛生手数料関係のし尿処理手数料の関

係につきましてお答え申し上げます。

当初見込みましたのが金額的に申し上げますと、三百十二万をし尿手数料として見込んだわけでございますが、九月一日から環境保全公社に相なりまして、環境保全公社が九月一日から扱いま

した量が一万十二キロでございます。金額的に申し上げますと百六十六万八千円の額でございますが、これは汲み取り料金等の値上げというように響いてくる関係がございますので、環境保全公社から市長宛に減免申請がまいりましたので、これを減額したわけでございます。

○福祉事務所長（山口 一君） 母子家庭児童入学祝金のことにつきまして御説明申し上げます。

これは、母子家庭におきます児童が小学校、中学校に入学する際に贈ります祝金でございます。一人五千円ということになっております。四十九年度におきましては七十四名を対象に交付いたしました。

続きまして、奨学資金の関係について御説明申し上げます。奨学資金につきましては、成績優秀でございますが、経済的理由等によりまして上級学校に行かれない方に対しまして、奨学資金を貸し付ける制度でございますが、四十七年度から開始いたしました。現在まで延べ九十五名の方に御利用をいただいております。本年は高校二十四名、大学二十一名の方に貸し付けをいたしております。

四十九年度の奨学資金の関係でございますが、貸し付けによります返還金が七十八万九千円、寄付金が百六十三万五千円、基金によります利子が十万七千円、以上の原資によりまして奨学資金の運用をいたしております。これらにつきましては、非常に高校進学者あるいは大学進学者につきまして、この制度は非常に評判がよろしゅうございまして、今後もしも引き続きこの制度を実施していきたいと。このように考えております。

○保健課長（越路良夫君） 六七ページの安房医師会補助金についてお答え申し上げます。

当初、百六十一万七千円の予算額でございましたが、その後三月の補正時点におきまして百二十万の補正追加がございました。その内容といたしましては、安房医師会病院に血液の分析機械を購入する三千百五十万、それに対する補助としまして百二十万を増額し、それによって総額が二百八十一万七千円。

以上でございます。

○水道課長（大嶋重義君） 七三ページの委託料について御説明申し上げます。

房州水道株式会社の所有にかかわる水道事業の有形固定資産の額を日本水道協会に依頼したわけでございますが、当初に予算を組む段階におきましては、市の水道事業につきましては簡易水道でございましたので、会員に入ってなかったわけでございます。昭和四十八年度に上水道になりましたので、四十九年度に入会いたしました。それによりまして、水道協会におきましては、会員であるので、会員からの委託依頼であるので、本当に実費だけでこの調査を行なうというようにことで、この委託料は約半減の形になったわけでございます。

なお、この調査関係でございますが、これにつきましては水道事業の有形固定資産につきまして機械装置あるいは浄水設備、配水設備、建物とか機械器具、備品こういったような全般につきまして、業者、それから水道課の職員立ち会った上で行ないました。なお、帳簿にのっていても、実際に現場におきましてないものにつきましては、そのような処置で除却していくというようにな

方法をとりましたし、また、機械器具等で修繕等してあるということで現場にないものについては、修理先の工場、メーカー等に来て追及いたしました。それぞれの証明をもって確認することという事で相当厳密に行なつてこの調査を終つたわけでございます。

○土木課長（飯田治男君） 八七ページの需用費の中の修繕料について御説明いたします。

街灯の修繕でございますが、橋梁灯の修繕、昭和橋、館山大橋につきましては年二回程度修繕をいたしております。それからあと、昭和橋、汐入橋、館山大橋、駅前及び海岸道路の街路灯についてボールのぬりかえ等を行なっております。駅前のボールを一本取りかえております。

それから、五十年から防犯灯につきましては、防災課のほうに管理がえをすることになりましたので、一応四十九年度までに私どものほうで管理しております街路灯については全部調査いたしました。そのうちわるかつたもの四灯だったんですけれども、一応四灯につきましては修繕をいたしました。以上です。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午後一時五十九分 休憩

午後二時三十分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一五番議員の質問に対して、福祉事務所長より訂正並びに補足の要求がございましたので、暫時許します。

○福祉事務所長（山口 一君） 先ほど、奨学資金の説明の際、四十七年より制度を開始と申し上げましたが、四十四年度よりの事業の開始でございますので、訂正させていただきます。

母子家庭児童に対する入学祝金の件でございますが、補正されている理由を御説明申し上げますが、従来小学校、中学校に入学する際、入学祝金を差し上げておりますが、昨年度高校に入学する子供に対しても祝金を差し上げるということにつきまして、高校分につきまして当初予算に組まれてございませんでしたので、補正させていただきました。

○一八番（渡辺軍治郎君） 先ほど、財政課長からの御答弁でございます。二中敷地との関係、中村さんとの関係、相当の期間について六カ月というような御答弁がありましたけれども、これは財政課長一人で相当の期間をきめるわけにいかぬと思うんですよ。これはお互いに合意書を取りかわしたわけですから、相手側の合意を得て六カ月と、御答弁のように六カ月として判断したのかどうか。それを一つお聞きしておきたいと思ひます。

次に、財産収入の二子新関の関係ですが、答弁では隔離病舎の跡地を、これは農地として買い上げたものを旧地主に払い下げたということだと思ひますが、隔離病舎の跡地は宅地になっているわけです。谷藤原の山林を市が買収したときには坪三千三百円で買収しているわけです。この宅地は隔離病舎の跡ですから、居住権のある土地とは違って、さら地だと思ひんです。そういうところを千九百円という、ほとんどただみたいなそういう金で払い下げているということに疑問を持つわけなんです、お尋ねしたわけですが、この点についてももう少し、三千八百円の調定に対して二分の一の額で払い下げたと。こういっています、非常に安い額で払い下げているので、そこところをもう少し突込んでお聞きしたいと思ひます。

それから、固定資産税の問題については大体了解できるわけですが、ただ問題は、ゴルフ場の問題について、これは規定が改正されるというふうなことを期待しているというふうなことですが積極的のこういうところからは税を取って、一般生活に困るようなところは軽減するという方向をとるべきだと思ひますが、これはひとつそういう方向で努力してもらいたいと思ひます。

もう一つは、六十五万坪といわれている自衛隊基地の、これは交付金という形で市は取っておりますけれども、この交付金が大体固定資産税に見合つたものかどうか。こういうところは、むしろ国との関係ですから、個人的なものでなしに、要求すれば相当のものは取れるのではないかと考へます。これは繰入欠陥がすでにあるということで、取れるところからはやはり取るというそういうことが大事ではないかと思ひますので、この点をお聞きしておきたいと思ひます。

それからあとは、先ほど市営住宅の使用料の問題が出て、これは辻田君からも質問されましたけれども、三十七万七千六百円というふうな未納と六万六千九百円というふうな欠損が出ています。大体市営住宅に入る人たちは、先ほどともかせぎというふうなこともありましたが、かなり生活困窮者、そういうような人たちが多いと思ひます。先ほど、石井議員からも苛斂誅求的な取り方というふうなことで出されましたけれども、生活の困窮者から差し押えをして取るというふうなことだと非常に問題があると思ひます。そこらは納得づくで納めさせるような方法で取ってもらいたいと思ひます。これは要望として。

それから、寄付金の問題ですが、課長の説明では、要望にこた

えて、そうして緊急性、必要性そういうものから寄付をとることを予算化していますが、寄付というものの本質は、任意の寄付は受けると、これは原則です。したがって、消防の寄付にしても、消防ポンプを買うためにそのうちの何割かを割り当てるというようなことで大体いつてるようなんですが、受けたところではその寄付を積み立てるために町内会費を値上げして、そうして積み立てている。これは割り当て寄付になり、それでまた足りなくて割り当てて取る。これが常にやられているところなんです。

消防組織法では、分団の経費は、管理は町町村長がやることになっていて、その経費は市町村長が負担するという風に組織法でははっきりきめられているわけです。これは公共事業ですから、火災という場合には全体の問題として理解する必要がある。それを一部の分団に寄付をおしつけるということは問題があると思ひます。

したがって、こういう寄付についてやれば、予算に組めばどうしても予算でまかなわなければいけないということで、どうしても割り当てることになる。そういう点では漁協関係の寄付も同じだと思ひます。これはたびたび問題にすると今年度予算で舗装、その他の寄付は一応やめています。まだこういう寄付が残っているということは将来にとっても非常に問題だと思ひますよ。

寄付というのは非常に不正のものです。税と違いますから、税外の税であつて実際は税のように所得に応じて取るといふような状態になつていないわけです。不正のおしつけが行なわれるということの問題にしているわけです。

今後の問題としてどういふふうにお考へなのか。一応これは予

算で出されていますが、今後のこともありますので、お聞きしておきたいと思います。

○財政課長（長谷川広治君） 覚え書きの期間の関係でございますが、予算計上した時点で私どもは相手方にそういう了解を求めたわけでもございませんし、私どもが考えて、まだ売却には一年余程度の期間がございますので計上いたしましたわけでございます。

九重の元の隔離病舎の跡でございますが、これはごらんになったことはないかもわかりませんが、道路から約四、五百メートル奥に入りまして、隔離病舎の性格上、俗に人里離れたというようなところにあつたわけでございますが、もちろんまわりは田んぼ、畑等でございますし、その上に、元の病舎があつたわけでございます。そういう取りこわしとか、あるいは電灯等も入っておりませんし、もちろん水の便もございませんで、建物が建っているから宅地というようになりませんが、そういうところでございますので、財産管理審議委員会の意見も求めまして、その額で払い下げをいたしましたわけでございます。

これは、元の地主さんでございまして、当時の九重村がその方から買取をいたしまして使つたわけでございます。廃止されたと同時に旧地主が農地として使いたいというような申し出で払い下げて処分したわけでございます。

○税務課長（小倉澄男君） 自衛隊の使用している土地等についての御質問でございますが、これは国有提供施設等所在市町村助成交付金という、法律に基づきまして国が予算を計上いたしましたそれを使用しております固定資産に相当する、固定資産の税額に相当するものを国の予算において交付されるものでございまして、

これは市町村といたしましても、その膨大な施設でございますので、年々それに対する増額というものは市長会を通じて陳情いたしております。あくまでも、使用している土地、資産に対する固定資産額に相当するものを交付されているということでございます。

○防災課長（羽山房雄君） 寄付の問題についてお答えいたします。おっしゃるとおり、寄付は強制であつてはいけないということ、は重々わかつておるのでございますが、実は財政のほうでも、寄付金を取らなくても市の予算でやればそれが一番いいことだと、常に財政のほうではいつてゐるわけです。

私どものほうでも、市の予算の範囲で年々施設を造成していく、こういうことができれば、そういうように近い将来持つていきたいと。現在は強制はしておりませんし、割り当てもしておりません。

ただし、地元の団と地元の話し合いで、これくらいは市のほうに協力しようじゃないかという申し出をいただいております。しかも、これも従来と違って最近基準が六分の一になっておりますが、この程度の協力をするからぜひこれだけは予算化してもらいたいという熱意ある申し込みがあるわけでございます。数多く要望のある中で必要度の高いところからそういうものをつくっていく関係で、一々地元によればそういう申し入れが熱意を持ってくるわけでございますが、そういうことで、財政当局ではそういうものをもらうのもおかしいんだ。それはやめなければいけない、ということ常々私どもに、担当課のほうにいわれております。しかし、私どもとしても、二個なら二個で打ち切るだけのしのび

ないところもございます。いろいろ地元との折衝の上でこうなつたわけでございます。決して割り当てをしておりませんし、強制もしておりませんので、その点、御了解願います。

の 水産課長（谷貝茂生君） 漁港整備の寄付金でございますけれども、やりたいところは次々にきりがないわけでございますが、予算編成前に一応各漁協さん集まっていたきまして、いろいろお話し合いをするわけでございますが、市が全額持つてやるということになりますと、たとえ、二個しかできない。その場合、どうしてももう一個、財源の關係である程度のは持つていいから三個やってくれというように、自発的に漁協のほうから申し入れがございまして、話し合いの中で一応予想を立てまして計上させていただいておるわけでございますが、これは県下どの港でも同じような線でございます。ほかのほうでは、大体市で持つ経費の半分ずつ、あるいは七割ぐらい漁協が持つてやっているとあるがございまして、県下では寄付は館山市が一番少ない。八対二の割合で、二割だけ出していただいておりますので、あくまでも自発的にいただいておりますような次第でございますので御了承願いたいと思います。

の 一八番（渡辺軍治郎君） 再質問しますが、財政課長の答弁の当分の間ということについて、先ほどの答弁では六カ月と、ただいまの答弁では、二年というようにかわってくるわけですね。それ以内とか。こういうことは相手と合意ができてゐるのかどうか。一方的判断ではできないわけですから、そこをお聞きしたわけですが、そういうことで、これはまだはっきりしたものじゃないと思うんですが、当分の間ということ、これから先の問題にもか

かってくるんじゃないかと思いますが、そういう点で合意ができているのかどうかということをお尋ねしてゐるわけですね。

それから、二子の隔離病舎跡の問題はいろいろ事情もあるようですから一応こういう点は了解しますが、問題はやはりさら地であるし、坪数も相当三百坪というようになり大きい土地です。それから、そういう点で事情はあつても、山林買収した当時の金額なんかと比べてみても非常に安い額ですから、そういう点は疑惑が持たれる。われわれ説明を聞かなくては疑惑を持たれるようなことなんでお尋ねしたわけですが、一応事情があるようですからこれは了承しておきます。

それから、交付金もらつてゐる館空の土地の問題ですが、固定資産税相当額をというようなことをお聞きしますが、五十一年度は評価がえの時期で三割上げるといふようなことを基準に今、一筆調査に入つてゐると思うんですが、この機会に、先ほどゴルフ場の問題も出しましたけれども、土地が主体になつて営業してゐるとか、あるいは国の財産のあれですから、そういう点では評価がえのときに、やはりこういうところからはもっと取つてもいいんじゃないかというふうに考えるわけですから、そういう点では評価がえの時期のがしきと、また三年先というようになりなすから、この機会にひとつ考えていただいてやってもらいたいということを希望しておきます。

それから、寄付の問題については、これはいろいろ事情はあります。しかし、消防組織法と、そういうような中で経費の分担がはっきりきめられてゐる問題について寄付をやるということには、やはり問題がありますから、やれば必ず割り当て的な寄付に

なって、やはり財政法にも違反するようになることにもなりますから
こういう点は今後相当自粛してもらわないといけないと思うん
です。

漁港の寄付にしても、大体これは県の単独事業船形と富崎の漁
港の改修です。そういうことに対して地元に分担金割合がくるわ
けですから、そういうものについては市が負担するもので、それ
を受益者負担ということで寄付をおろしていますが、そういうこ
とで今、やはり漁があるときには景気がいいんですが、最近の船
形の状態なんかはあまりいい状態ではない。そういうところに寄
付をさせるのは問題だと思う。

漁港や河川で国、県が仕事をやるというのは、国土の保全とか
産業の振興とか、そういう政策的のものもありますから、そうい
う点を抜きにして地元負担させるといふのは問題だと思ひので
もう少し検討してそういうことのないようにしていただきたいと
いうことをお願いしておきたいと思ひます。

それから最後に、監査委員の監査について妥当であるというよ
うなことをいわれましたけれども、どこが妥当なのか。われわれ
は見当がつかないわけです。実際には改善しなければならぬ
点はあると思うんです。特別委員会にひとつお願いして、そう
いう点は明確にしてみたいと思うんです。

それから、財政課長の答弁にあつたような相手との合意をした
上で、期間なら期間をはっきりさせないと、あとでまた問題が起
こると思うんです。そういうことでは、当分の間という抽象的
ことではどっちでもとれるんです。そういうことではまずいと
思うんです。こういう点でも、特別委員会でもう少しそういうよ

うな点をはっきりさせて、今後の問題としてまた問題が発生する
おそれもありますから、十分そういう点は気をつけてやっていっ
てもらいたいということをお願いして発言を終わります。

動 議

〇二三番（菊井敏博君） この際、動議を提出いたします。

ただいま議題となつております一般会計歳入歳出決算につきま
しては、なお他に発言もあろうかとは思ひますけれども、この程
度で質疑を終結され、先に進めていただきたく、ここに議事進行
の動議を提出いたします。

なにとぞ、満場の御賛同をお願いいたします。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） ただいま二三番議員君より一般会計歳入
歳出決算についての質疑を終結され、先に進めていただきたいと
の動議が提出され、所定の賛成者がありますので動議は成立いた
しました。よつて、本動議を議題といたします。

おはかりいたします。本動議のように取りはからうことに御異
議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて、さよう
決定いたします。次に進みます。

続いて、認定第二号乃至第七号の各特別会計決算を一括して質
疑を行います。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 一二六ページ二款保険給付費療養給付
費として補正が四千二百二十七万九千円の減額補正をしている上

で、不用額として千六百六十一万七千円計上しているわけですが、これは減額補正した上で、不用額がこんなに出るということは一
体どういうことか。その点をひとつお聞きしておきたいと思いま
す。

それから、繰り入れ金の問題について、当初予算で千五百万円
繰り入れを計上していますが、一般会計からの繰り入れ金ですが
七百五十万、半分しか繰り入れてないわけです。これは前年度の
予算でも千五百万円繰り入れはしていると思うんですが、繰り入
れがないために結局保険税が上るということになりますの
で、これは入れてもらいたいということですよ。公共料金として
の保険税が値上げになるということは、大きな苦痛を市民に与え
るわけですから、しかも、超過負担というようなこともあります
ので、千五百万予算組んだらそのまま繰り入れてもらえれば保険
税も軽減されると。これは四千三百二十万二千九百四十八円とい
う繰り越しが出たわけですが、これが五十年度の六月算定期で一
応保険税が二三・何%か軽減はされていますが、それにしても毎
年毎年保険税は上る傾向にありますので、この繰り入れはかなり
財政的には苦しいところもあるかもしれません、これは水道会
計も同じですが、公共料金特に福祉ということを考えて、当然こ
れは一般会計からの繰り入れを予算どおりにやるのが妥当ではな
いかというふうに考えるんですが、今後の問題もありますので、
ひとつお聞きしたいと思います。以上二点。

○保健課長（越路良夫君） 第一点の保険給付費について申し上げ
ますが、この保険給付の算定時点これは当初予算におきまして算
定するわけでございますが、療養費の医療単価の引き上げ等も配

慮しながら当初積算するわけでございます。その段階で、過去三
年間の実績等を配慮しながら、この程度の額の必要額ということ
で当初予算積算したわけでございますが、その後の支払い状況等
を勘案いたしましたして、三月時点におきまして保険給付費総額にお
きまして二千八百万余りを補正したわけでございます。

その後なお、御指摘のような不用額の一千九百万円余りという
ことでございますが、この額は、逆に支出済み額からみてまいり
ますと、予算額に対しましては九七・四二%というような執行率
を示したわけでございます。この保険給付の療養費等の支払いに
つきましては非常にその積算あるいは支出状況の把握につきまし
ては非常に困難な面がございます。と申し上げますのは、現実に
は三月の診療月のものが五月に支払いがされるわけでございま
す、その支払い年度は、これは現在の会計法上は旧年度で支給す
るという関係もございまして、三月の補正時点では補正可能な見
込みを立てまして二千八百万の補正をしたわけでございますが、
その結果、ただいまのような執行率が九七%余ということござ
います。

なお、第二点の繰り入れの関係でございますが、国保は税、そ
れから国、県の支出金等の財源によってほとんどまかなうわけ
でございますが、その段階にあたりまして、四十九年度医療単価の
引き上げによる見込みを立て、結果的には、被保険者の保険税軽
減につながるような考えを含みながら、当初千五百万の繰り入れ
を議決をいただいたわけでございますが、原則的には国保会計に
ありましては独立採算制というような大原則があるわけでござい
ます。

たまたま、年度後半にまいりまして、一般会計において三億円の赤字見通し、なお、国保において千五百万円の繰り入れをやらなくても黒字が見込めるといふような中で、この繰り入れ金をどうすべきかといふことで検討したわけでございますが、最終的には議会の意思を尊重しながら、結果的には国保会計全体についての黒字といふような中で、収入の状況を勘案しながら二分の一の繰り入れを行なった。そういうことによつて、予算に対しての半額執行。そういう結果に終わったわけでございます。

〇一八番（渡辺軍治郎君） 医療給付の減額補正ですけれども、結局当初予算で、三月の時点で相当多くみているのではないかと思ふんですが、三年間の平均といふことです。かなり資料としてはむずかしい計算のあれをみせてもらっているんですが、それが現在の実情に合った計算の方法かどうか。これはわからないわけですよ。ああいうむずかしい計数を入れた資料ですから、そういう点で、この決算の結果からみると、やはり当初予算が大きくみえて、黒字が四千三百二十万二千九百四十八円繰り越されていますが、こういうふうな繰り越しが出てくるということはどうも予算を相当多くみているといふことだと思ふんで、この点はひとつ十分に今度の決算から学ぶといふんです。そういう点では予算編成のときに十分考へて実情に合うような、そういう方向でやってもらいたいと思います。

それから、繰り入れ金の問題ですが、先ほど超過負担の問題、国保についてどのぐらいあるかお聞きしたんですが、大体千六百六十九万八千円ですか、それぐらいの事務費を超過負担として保険税でかぶっているわけです。当然、事務費に相当するぐらいの

ものは一般会計から補てんして保険税にかからないようにするのが社会福祉という観点に立ったやり方だと思ふんです。そういう点について、これは将来のことでもありますので、市長の見解を聞いておきたいと思ひます。

〇市長（半沢良一君） ちょっと、ただいまのお考えは私と考へ方が違ひますので、超過負担は確かに千六百万でございますが、その補てんするのは市の一般財源から補てんすべき問題ではなくて、国からもらつてこなければならぬ金だ。そういうふうに考へております。やはり千五百万の金を市で、市の財源から補うということとは、それだけ市の財政そのものを圧迫することとなるのだらうと考へます。それはやっぱり一種の独立会計でやらなければいけないといふ本来のたてまえからいって妥当ではないように考へるわけでございます。

しかし、原則は別として、確かに保険税が高くなるということとは、特に国民健康保険の場合は比較的社会的な弱者といひますと、語弊がありますが、弱い方が多いわけでありまして、そういうものに対する保険税が上るといふことは、福祉の立場から考へなければならぬと思ひますので、財政事情とにらみ合わせながら一般財源からの繰り出しを考へていきたい。こんなふうに考へております。

〇一八番（渡辺軍治郎君） ただいまの繰り入れの問題についてですが、市長は当然超過負担は国が払わなければならぬ。したがつて、この超過負担を保険税に転嫁してはならないといふことだと思ふんです。しかし実際には転嫁されているわけです。繰り入れしなければ当然被保険者が超過負担を負担させられていると

いうことに、現実はそのようになってゐるわけです。当然これは、国の超過負担をなくさせるということは、自治体本来として当然国に要求して取るべき問題ですが、すぐにはできないと思うんです。結局、国から超過負担を出させるまでどこで負担するかということになれば、被保険者に負担させるのか、市が負担するのかわということになれば、当然市が負担すべきだと思います。そして、それを超過負担の解消を、国の負担で埋めていく。たとえば、借り入れてやっても、その負担を国から取って穴埋めするというのがたまたまだと思うんです。

ですから、今の保険税というのは大体一戸当たり四万九千円、一人当たりだと一万五千円というのはかなり平均値としても高い額です。ね。私なんかだつて七万円保険税払つていますが、一般平均してみればかなり高い税金になっているわけです。そういう点を考えると、福祉の充実ということを市長はいつてゐるわけですから、そういう立場に立つて、この繰り入れの問題は今いった超過負担の問題とからんでもう少し検討してもらいたい。

市長の御答弁では、いつもいへば財政事情が出てくるんですが赤字かかえていますから、負担をどうしても市民におしつけるといふ傾向が強まるわけです。そういう点で、きのうも福祉の問題を中心に水道問題、保育料の問題、老人医療の問題を出したわけですが、そういう点十分考えて予算を執行する場合に十分の配慮をしてもらいたい。そういうことをお願いして質問を終わります。

動

議

〇二三番（菊井敏博君） この際、動議を提出いたします。

ただいま議題となつております認定第一号乃至第七号につきましては、なお発言もあらうかと存じますが、ひとまずこの辺で質疑を打ち切り、さらに詳細に内容を検討するため、決算審査特別委員会を設置してこれに一括付託し、慎重審査をお願いいたします。

なお、委員の数は十名とし、選任の方法は議長、監査委員を除いて選考し、議長の指名によりたいと思います。

満場の御賛同をたまわりますよう、お願い申し上げます。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

決算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託

〇議長（吉田勇治郎君） ただいまの二三番議員君の動議を議題といたします。

本動議は、認定第一号乃至第七号についての質疑を打ち切り、さらに慎重審査の必要上、決算審査特別委員会を設置しこれに一括付託する。

その委員の数は十名、選任の方法は、議長及び監査委員を除いて選考し、議長の指名によるということであります。

おはかりいたします。本動議のとおり決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて、決しました。

これより決算審査特別委員会の委員を指名いたします。

四番議員 押元 稔君 六番議員 鈴木 正義君

一〇番議員 流山源次郎君 一一番議員 近藤 好雄君
 一四番議員 石井 輝久君 一六番議員 安西 益男君
 一九番議員 渡辺 昭夫君 二〇番議員 和田 一郎君
 二三番議員 菊井 敏博君 二六番議員 藤田 益治君
 以上十名、決算審査特別委員会の委員に指名いたします。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、決しました。

重ねておはかりいたします。ただいま決定されました決算審査特別委員会に認定第一号乃至第七号昭和四十九年度一般会計及び特別会計決算を一括して付議し、後日の本会議まで審査を了し、その経過並びに結果について報告を求めるようにいたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、決しました。

ただいま選任されました決算委員の方々は、のちほどこの議場において正副委員長長の互選を行いますので御了承願います。

休 会

○議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。

明十月二日から五日までの四日間委員会審査のため休会いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、十月二日から五日までの四日間休会することに決しました。

延 会 午後三時十三分延会

○議長 (吉田勇治郎君) 重ねておはかりいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、十月六日午前十時開会といたします。その議事は、認定第一号乃至第七号昭和四十九年度各会計決算にかかる決算審査特別委員会委員長の審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

- 一、認定第一号乃至第七号
- 一、動議
- 一、動議・決算審査特別委員会の設置・委員の選任・付託
- 一、休会

